

書名	天地明察		出版年 (西暦)	2009
著者・編者	沖方 丁	出版社	角川書店	
学部・研究科	工学部	学年	4 年	
<p>沖方丁さんの作品が好きで、この本を読みました。私のこれまでの作品とは世界が異なります。私がこれまで読んだ作品はSFですが、この天地明察は江戸時代が舞台の時代小説であり、登場人物は実在します。</p> <p>主人公の渋川春海は算術が得意であり、それを見込まれ改暦事業を任されます。その中で様々な人物と出会います。彼ら出会う人々のうち、建部昌明と伊藤重孝そして水戸光圀は老いては尚、情熱を持って学問に打ち込んでいます。学びたいという熱意を抱けば、老いた自分の寿命も気にせず、新しい事を学ぼうとします。私は彼等のこのような生き様から、自分もこの様に学びたいものなと思いました。学生としても、彼等の学ぶ姿勢は見習うべきものがあります。作中で、この時代は、庶民の間でも身分に関係なく算術が学ばれ、一種の娯楽のようなもので、当時、この算術で天体の動きまで知る事ができたという事に私は驚かされました。</p> <p>この本は、「こんな風に学んでみたい」と思わせてくれます。学生として読んでおいて欲しいと思います。難しい事を考えずに読んで楽しむ。是非読んで欲しい。私のお薦めの一冊です。</p>				